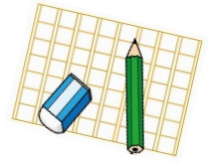




よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト



毎年横浜市では「よこはま子ども国際平和プログラム」の一環として、よこはま子ども国際平和スピーチコンテストが行われています。

本町小学校では、6年生全員が「国際平和のために自分が今できることは何か」を考えて作文を書きました。5月29日（水）に行われた校内審査会では、各クラスから2名ずつ選ばれた代表者が、5・6年生およそ200名の前で堂々と自分の考えを発表しました。聞く側も発表の内容についてじっくりと考えたり、スピーチの仕方を学んだりすることができました。



6月20日（木）に関内ホールにて行われた、中区の小学校代表者のスピーチコンテストでは、6年3組の方柏庭さんが本町小学校の代表としてスピーチしました。「未来に繋がる今」と題し、「外国から来た友達を温かい心で迎え、関わっていく必要がある。言葉が伝わるかどうかではなく、伝えようとする心が大切だ。」ということを手張りました。自身が日本に来た際に、友達が声をかけてくれた体験談なども交えながら、これからの自分たちにできることを具体的に述べた素晴らしいスピーチでした。どの学校の代表者も、一人ひとりが世界の人たちの幸せを願ったスピーチを披露し、会場が温かい空気で包まれたスピーチコンテストとなりました。



未来に繋がる今

方 柏庭

私の通う本町小学校には、様々な国から来た友達がたくさんいます。皆さんの生活の中には、外国から来た友達はいますか。もしいたとしたら、その友達と「関わってみたい」と思ったことはありませんか。

私は四年前、中国から日本にやってきました。初めて日本に来た時は、言葉がわからなくても心配でした。それまで日本人と一度も関わったことが無かったので、日本の学校に通うと決まり、怖くなりました。

しかし、実際に小学校へ通ってみるとみんな優しく、すぐに友達ができました。遊びに誘ってくれたり、わからないことがあってもジェスチャーを使って一生けん命に教えてくれたり友達がいつもそばにいてくれたおかげで安心して過ごすことができました。

けれど、外国から来た友達の中には、私のように笑顔で過ごしている人ばかりではなく、言葉が分からなくて不安だったり、友達ができなくて悲しい思いをしたりしている人もたくさんいます。私は、そういう人たちの気持ちがとてもよくわかるからこそ、もっとみんなを手助けしてあげる必要があると考えています。

「言葉が通じない人とうやうや関わればいいのか分からない」と感じる人もいます。しかし、本当に大切なことは「言葉が通じる」ということなのではないでしょうか。私が日本に来た時寄りそい助けてくれた友達の多くも、中国語は話せませんでした。それでも私は安心して笑顔で学校に通うことができました。この経験をもとに、本当に大切なのは言葉が通じるかどうかではなく、「気持ちを伝えるか」「伝えようとしているか」ということだとわかりました。

「一緒にやる」「一緒に遊ぶ」と自分から声をかけたり、相手の国の言語で簡単な挨拶をしたりすることで、言葉の意味はわからなくても、歩みよってくれた温かい心は伝わります。言葉はわからなくても、気持ちを伝えようと行動すれば、自然と、相手と心が通じます。そうやって一人ひとりがもっと外国から来た友達を優しく包んでいくことで、心配を安心に変え、温かい関わりにつながるはず。不安いっぱいだった四年前の私が、こうして自分らしく語っている今に繋がったように。